

## チェンバロ | 中野 振一郎 SHIN'ICHIRO NAKANO

京都生まれ。90年10～11月に大阪で開いた4回連続の独奏会「ヨーロッパ・チェンバロ音楽の旅」により「大阪文化祭金賞」等を受賞。翌年7月にはフランスの「ヴェルサイユ古楽フェスティバル」のクーブラン・サイクルに日本代表として参加。92年6月、「パークレー古楽フェスティバル」へ最年少の独奏家として招かれる。93年ロンドンの独奏会場ウィグモア・ホールのデビュー・リサイタルを開き、「日本人には珍しいパーソナリティーを持っている。」と的確な評価を受けた。CDの収録にも意欲的で、2000年には「ゴルトベルク変奏曲」はヒストリカルとモダンを弾き分けるという誰にも真似の出来ない演奏と発想でレコード・アカデミー賞に輝いた。2003年5月にはバツハアルヒーフ主催の「バツハ フェスティバル イン ライツツヒ2003」に参加。J.S.バツハ／ゴルトベルク変奏曲、C.P.E.バツハ／チェンバロ協奏曲 イ短調Wq.1（世界初演）等を演奏し、好評を博す。続く2004年8月、ドイツで行われたソロ・リサイタル・ツアーでは地元紙から「『例外』のチェンバリスト」、「『耳のご馳走』など大絶賛された。2004年10月にC.P.E.バツハの作品を取り上げ行ったリサイタル（大阪・イシハラホール）が、2004年度文化庁芸術祭・大賞を受賞。2008年度「音楽クリティック・クラブ賞」受賞。2008年6月には、チェコへの演奏旅行を行ない現地で大きな反響を呼んでおり、2009年6月にリリースしたパーセルのCDでは2009年度「第47回レコード・アカデミー賞」を受賞している。2010年11月に「チェンバロをひこう」（～憧れの楽器をはじめめるための名曲集～）を音楽之友社より出版し、後進の指導にも力を注いでいる。  
公式ホームページ <http://nakano-shinichiro.com/>

## 使用楽器について

今回の使用ハープシコード（チェンバロは独語の呼び方で、英語ではハープシコード、仏語でクラブサン、伊語でクラヴィ チェンバロと呼びます）は、ダニエル デュルケンが 1745 年に製作したフレミッシュハープシコードを基にして、1995 年に製作したものです。（この基の楽器はアメリカのワシントンにあるスミソニアン博物館に所蔵されており、現在でも博物館内での演奏会や録音に使用されています。）

フレミッシュハープシコードとは、16～18 世紀当時にベルギーやオランダのフレミッシュ地方で製作された楽器を示します。この他にも製作された地域により、フレンチハープシコード、イタリアンハープシコード、ジャーマンハープシコード等があります。

ダニエル デュルケンはハープシコード製作者一族の二代目です。このデュルケン家は四代に渡りアントワープ、ブリュッセル等のフレミッシュ地方でハープシコードを製作し、五代目はフォルテピアノ製作者になっている鍵盤楽器製作者一族です。

ハープシコードが蓋裏や響板に絵を描き入れ脚の装飾にまで凝っているのは、当時この楽器が王侯貴族や富裕の人々の持ち物で贅が尽くされていたためで、ボディ全体にまで装飾が施された楽器もあります。ゆえに当時は楽器としてだけではなく装飾品としても考えられていたと思われます。有名な画家レンブラントもハープシコードに絵を描き入れたと言われております。

前記のデュルケンが 1745 年に製作した楽器は、紺色に塗られたボディに金箔の帯、そして響板に絵が描かれておりますが、蓋裏には絵が描き入れられていませんでした。そのため私の楽器には、ベルギーの博物館に所蔵されているデュルケン製作の楽器より、美しい風景画を模写して取り入れております。しかし響板に描かれている絵は、1745 年に製作されたオリジナル楽器より忠実に模写したものです。

楽器製作：百瀬昭彦



チェンバロ

## ヴァイオリン | 川田 知子 TOMOKO KAWADA

東京芸術大学を首席で卒業。小林武史、沢和樹、田中千香士、原田幸一郎、堀正文、ヴォルフガング・マーシュナーの各氏に師事。1991 年第 5 回シボア国際コンクール優勝。2003 年度、第 33 回エクソソモービル音楽賞、洋楽部門奨励賞受賞。

NHK 交響楽団、東京都交響楽団、読売交響楽団を始めとする国内外のオーケストラのソリストとして活躍。サンクトペテルブルグで行われたサンクトペテルブルグ交響楽団定期演奏会でも絶賛を博している。2003 年には、国際交流基金日本文化紹介派遣事業でトルコ及びエジプトでリサイタルを行い、2007 年ブダペストでピアノのイェヌー・ヤンドゥーとデュオ演奏会を行なっている。宮崎国際音楽祭に毎年参加し、ピンカス・ズーカーマンと室内楽で共演。10 年目を迎えるチェンバロの中野振一郎とのデュオの外、様々な器楽奏者との共演に意欲的に取り組んでいる。マイスター・ミュージックより 6 枚の CD が発売され、最新盤は 2013 年 10 月発売の福田進一（ギター）との「我が懐かしのプエノスアイレス」。

洗足学園音楽大学講師。

公式ホームページ <http://www.tomoko-kawada.com/>

